

NGO相談員による出張相談実施報告書

1. 出張相談概要

- ・団体名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
- ・出張者：事業部 山本理夏
- ・企画名：世界の子どもたちに絵のメッセージを送ろう！
【形態：その他（ワークショップ）】
- ・実施日時：2013年8月9日（金）10：00-12：00
- ・場所：宮城県気仙沼市唐桑町鮎立166-1 鮎立児童館
- ・実施内容：ピースウィンズ・ジャパンの事業地について、子どもたちの生活状況などを紹介し、そのうちの一か国であるトルコの子どもたちに送る絵のメッセージを作成する
- ・依頼元／主催等団体名：NPO 法人あすわ
- ・集客人数：10人（小学生）



2. 実施内容

- （1）ピースウィンズ・ジャパンの事業地（アフガニスタン、南スーダン、ハイチ、イラク、トルコ）について状況説明
- （2）トルコの絵本の紹介
- （3）絵のメッセージの作成
- （4）絵のメッセージの発表コーナー
という内容でワークショップを行った。

（1）ピースウィンズ・ジャパンの事業地について状況説明

ピースウィンズ・ジャパンがこれまでに事業を行ってきた国々の中で、アフガニスタン、南スーダン、ハイチ、イラク、トルコを例に挙げ、まずは参加した子どもたちに地球儀上で各国の位置を探してもらった。次に各事業地で撮影した写真を見せながら、現地での生活の様子、とりわけ子どもたちの状況について説明を行い、自分たちの暮らしと比較してもらうなど、参加者との対話を踏まえつつ理解を深めてもらった。

（2）トルコの絵本の紹介

トルコの子どもたちが東日本大震災で被災した東北の子どもたち宛てに送った絵のメッセージがまとめられた本「友情の架け橋」（トルコGEA搜索救難隊編纂）を紹介。講師が一部読み聞かせをした後、参加者を2グループに分け、それぞれに絵本を見てもらいながら、トルコの子どもたちに送るメッセージのイメージを膨らませてもらった。

（3）絵のメッセージ作成

トルコの子どもたち宛てに絵のメッセージを作成。参加者は、両国の国旗や手をつなぐ子ども、花火や唐桑の海産物など、思い思いの絵を描いた。

（4）発表コーナー

出来上がった絵をホワイトボードに張り出し、参加者が一人一人発表を行った。出来上がったメッセージは、講師が次回トルコに出張する際（本年度中の見込み）、トルコGEA搜索救難隊を通じて現地の子どもたちに手渡される予定である。



3. 所感及び効果等

ワークショップを見学された親御さん方の感想

- ・普段なかなか聞くことができない国々の話が子どもたちに聞かせることができ、親としても嬉しい。
- ・講師が小さい子どもたちの扱いに慣れており、分かりやすく話してくれたのがよかった。
- ・話を聞くとともに、絵を描くときも、子どもたちの集中力がすばらしかった。
- ・海外の子どもたちと交流することには前々から関心があったので、今回このような機会を持つことができありがたい。
- ・ニュースで見聞きする海外の情報はほんの一部にすぎず、鵜呑みにできないのではないかと考えた。

講演者の感想

- ・子どもたちが熱心に話を聞き、支援が必要な海外の国々について、またそれらの国々と自分たちの生活が繋がっていることについて、理解を深めることができた。
- ・東日本大震災の被災地に住む子どもたちは、海外についての関心も非常に高かった。このようなワークショップを今後も実施していきたい。



平成25年9月2日

外務省国際協力局
民間援助連携室長殿

平成25年度 NGO 相談員 出張サービス実施報告書

(特活) 国際協力 NGO センター

NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたので、ご報告申し上げます。

1. 概要

- 出張サービス企画名：「NGO 茨城の会」と JICA 茨城デスクによる研修会
- 実施日時：平成25年8月28日 10時00分～12時00分
- 場所：(公財) 茨城県国際交流協会 研修室
- 出張者氏名：松原和紀

2. 実施内容

茨城県内の中小の NGO で構成する「NGO 茨城の会」の加盟団体が共通に持つ課題について相談に応じる。相談の内容は以下のとおり。

- ・活動資金不足の解消
- ・助成金等の情報入手手段の理解
- ・継続的な活動の方策 など

同研修会には、上記課題を抱える団体5団体(7名)、その他 JICA 茨城デスク、(公財) 茨城県国際交流協会スタッフなど計 11 名が参加し、開催された。当センターからは 1 名を派遣し、主に、活動資金確保や継続的な活動を行う上でのノウハウ、助成金情報の入手方法について資料を用いて説明した。尚、当日は、JICA 職員より、JICA が提供している助成金制度や支援制度、人材採用のためのツール(JICA PARTNER)について説明された。

3. 所感

参加人数が少数であったため、ざっくばらんに意見交換ができた。参加者からは、主に以下のようなご質問・ご感想をいただいた。

- ・ 自己資金を増やしていかなければならない必要性は十分理解している

が、実際には自己資金だけでは活動を賄えない現実があり、活動資金の一部は助成金に頼らざるを得ない。小規模の団体でも、使い勝手のよい助成金の制度があると有難い。

- ・ ボランティアを活動地へ移動させるための交通費など、少額の助成制度はあるのか。
- ・ 中小 NGO のニーズに見合った助成制度が少ない。また、情報が拡散しており、なかなか良い情報に辿りつけない。助成金の情報を掲載しているウェブサイト、分かりやすく見やすく改善してもらえると、中小 NGO にとっては助かる。
- ・ 企業や行政等の助成制度を、中小の NGO にも使いやすいような制度になるよう提言していくべきではないか。

上記に対し、当該団体が運営するウェブサイトも含め、NGO 向けに様々な助成金制度を掲載しているウェブサイト、情報入手手段を説明した。また、当センターがこれまで実施してきた研修事業についても紹介し、中小 NGO が直面する組織運営上の課題、その課題を如何に乗り越えようとしているか等、事例を交えながら説明した。

今後も継続的に本イベントのような場で、中小規模の地方の NGO の相談に応じることも、本出張サービスの重要な役割と考える。

【相談対応の様子】



以上

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「第10回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」
※出張形態：相談対応ブース

2. 出張者：坂西卓郎（(公財)PHD協会職員）

3. 実施日：2013年8月6日（火） 12:00～18:30

4. 場所：独立行政法人国際協力機構関西国際センター（JICA 関西）
（神戸市中央区臨海海岸通 1-5-2）

5. 対象者：国際理解教育・開発教育に関心のある教職員・学校関係者、学生

6. 実施報告：兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、公益財団法人神戸 YMCA、公益財団法人 PHD 協会、独立行政法人国際協力機構関西国際センター（JICA 関西）、公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部の 6 者による主催、及び兵庫県国際協力推進員との連携で上記セミナーを開催し、その中で相談員対応ブースを設けた。

本セミナーは参加対象を「国際理解教育・開発教育に興味のある教職員・学校関係者または学生」としており、主に教員の方が参加される。今回は主催者発表では約 90 名の方が参加された。内容は主に教員の方を対象に開発教育のワークショップを紹介し、「2 学期からすぐに使えるようにワークショップを体験してもらおう」というものであり、意識の高い先生方が参加されていた。

実際の相談としては上記ワークショップの合間に相談員ブースに来ていただくということだったので、時間的があり、相談件数も 5 件程度であった。しかしながら、相談員チラシの配布を積極的に行い、関西圏の教職員の方への周知徹底には寄与できたと思われる。相談内容としては学校での実践やスタディツアーなど、学生にどのように伝えられるか、という点が主なものであった。

今回、兵庫県教育委員会及び神戸市教育委員会の方との組織としての連携は有益なものであった。学校現場も予算が減少傾向で NGO など外部講師を呼ぶことができない中、NGO 相談員の存在を認知してもらい、活用の可能性を共有することができた。今後は実際の講師派遣や相談員ブース開催などの実際の活用につなげていきたい。

7. 添付画像：別紙に当日の様子を 3 枚添付



「第10回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」の様子①
相談者の対応をしているところ。



「第10回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」の様子
②（左の写真）、③（右の写真）
②教員の方にチラシを配布しているところ。
③セミナーの分科会の様子。当日参加者は約90名。

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「コープこうべ職員研修 私たちが持っている力」
※出張形態：講演・セミナー
2. 出張者：坂西卓郎（(公財)PHD協会職員）
3. 実施日：2013年8月19日（月）13:00～17:15
4. 場所：コープこうべ健保会館 3F 会議室
（兵庫県神戸市東灘区住吉東町 4-6-5）
5. 対象者：コープこうべ職員約 31 名
6. 実施報告：兵庫県及び関西地区で 100 万人以上の会員を持つコープこうべの職員研修に呼んでいただき、講演とワークショップを行った。最初に社会の不平等を感じようということでワークショップ、貿易ゲームを実施（13:00～15:00）。その後、坂西が講演及び振り返り（15:00～17:15）を行った。

貿易ゲームでは自由貿易が進み、経済がグローバル化すればするほど格差が広がるシステムになっていることを体感し、生協としてのあり方を考える時間を設けた。セミナーでは国際協力の概要（NGO と ODA の対比など）について学ぶとともに、特に援助の当事者性についてレクチャーを行った。実例を挙げながら問題の当事者が変わらなければ本当の意味での生活改善には繋がらないこと、実際に行われているファシリテートについて理解を深めた。その後、振り返りを行い、「今日の大切な気づき」について受講生同士で話し合う時間を設けた。

PHD 協会とコープこうべは日々の連携があることもあり、国際協力への理解がある職員も多く見られた。しかしながら、今回の目的である「コープこうべは組合員自身が自分達の力で生活改善をしていくことが目的であることを再認識する」という点においては、実感のない職員も多いようだった。その点についてはセミナーの中で、「職員として組合員に働きかけることで行動変革を起こすことは可能ではないか」と訴えた。その反応としてはふりかえりの中で「変化は常に内側から起こるという今日の学びを活かして明日から業務にとりくみたい」、「生協に想いを持って入ったが、どこに力を注げばいいのか悩んでいた。明日からは希望を持って働きたい」という声が振り返りで出た。

関西、特に兵庫県においてコープこうべはその組合員数が示すように強い存在感がある。その組合員に直接繋がる現場の人達に直接語りかける機会は有意義であった。今後の職員の働きかけを期待したいし、当会としても継続的に働きかけを行っていききたい。

7. 添付画像：別紙に当日の様子を3枚添付



「コープこうべ職員研修 私たちが持っている力」の様子①
コープこうべの職員（20～50代）に国際協力の概要及び
ファシリテーションについてレクチャーしているところ。



「コープこうべ職員研修 私たちが持っている力」の様子②、③
②セミナーは対話型で進行した。
③前半の貿易ゲームの様子。参加者は31名で活発な参加が見られた。

2013（平成 25）年度 NGO 相談員出張サービス報告書

報告者：（特活）関西 NGO 協議会 北川順子

1. 企画名：「2013 ピースフェスティバル・大阪（Peace Conference of Youth2013）」

NGO 相談員ブース出展

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

実施日時：平成 25（2013）年 8 月 25 日（日）

13 時 30 分～17 時 30 分

場所：リーガロイヤルホテル大阪 3F

ロイヤルホール

（大阪市北区中之島 5-3-68）

主催：社団法人大阪青年会議所

2013 年度世界の良心循環委員会

出張者氏名：北川順子



2. 実施内容：

例年、学生間の国際フォーラムとして開催されていたピースカンファレンスを、今年度から拡大し、幅広く国際協力団体にブース出展を呼びかけ、国際協力の様々な形をアピールするイベントとなった。国内の大学生はもとより、海外からの学生の参加者の姿も多く、世界の平和を目指して、学生グループが自ら企画したアイディアのプレゼンテーションがあり、学生の意識の高さがうかがわれた。

当会は、関西における国際協力 NGO の広報支援を担っていることもあり、NGO 相談員として、来場者に NGO の活動を紹介するとともに、活動に関わりたい若年層に対し、あるいは他の出展団体に対して NGO 相談員の紹介や支援活動メニューなどを広く説明することができた。

3. 集客人数または相談対応件数：

参加者：約 365 人、ブース出展：32 団体

4. 所感及び効果等：

立脚型のブースのため、時間をかけてじっくり相談に乗る機会は少なかったものの、来場者が後を絶たず、多くの方に話をする機会を持つことができた。その多くは学生であり、現在の専門性の生かし方、学生の間で国際協力に関わる方法など、学生ならではの相談が多く寄せられた。

少数ながら、社会人の方、特に CSR 業務に関わっておられる方のネットワーク構築、情報収集もあり、今後ピースフェスティバルへの NGO のブース出展が恒例となることで、学生はもとより、幅広い層の方々に NGO 活動の紹介、同時に NGO 相談の機会となることが予想される。

イベントとしては新たな試みとして、当会も今後この機会を有効に利用し、NGO 相談員と関西 NGO 協議会と NGO 相談員の存在をアピールしてゆきたいと考える。

なお、国際協力団体のブース出展企画は初の試みであったため、会場の配置、人の流れ、スケジュール進行など、予想が付きにくかったが、次回からはより効果的な出展が期待できると考える。

以上



NGO相談員による出張相談実施報告書

1. 行 事 名 「ピースフェスティバル 2013」
【形態：相談対応サービス】NGO相談員の情報&相談コーナー
2. 出張者氏名 (特活) 関西国際交流団体協議会 西 保彦
3. 依頼団体 社団法人大阪青年会議所
4. 実施日時 2013年8月25日(日) 14:00～17:30
5. 実施場所 リーガロイヤルホテル大阪3Fロイヤルホール
(大阪市北区中之島5-3-18)
6. 実施報告

(1) 企画概要

- ①本イベントにおいてNGO相談員の出張サービスとして出展し、情報&相談コーナーを設置して国際交流・協力活動の情報提供と個別相談を行った。イベント関係者や参加者、参加団体など、関心の高い学生や若者のキャリア形成のきっかけ作りおこなうと共に、今まで国際交流・協力の情報に接する機会の少なかった市民への理解を深めるための情報発信を目的とした。
- ②「Peace Conference of Youth(PCY)」は世界中の学生を対象とし、恒久的世界平和の実現に向けて主体的且つ積極的に活動を起こす「次世代のリーダー」を育成すべくプログラムであり、「ピースフェスティバル 2013」では世界18カ国から集まった学生達が7日間議論して作成した世界平和に向けた行動をしていくためのアクションプランを発表する場となった。また基調講演として「日本人の心が世界を変える」駐日ベナン共和国大使ゾマホン・ルフィン氏による講演がおこなわれた。
- ③ブース協力団体として本協議会を含め31団体が参加する。
 - 1) (特活)AMDA国際医療情報センター
 - 2) ガリレオクラブインターナショナル
 - 3) (公社)日本国際民間協力会(NICCO)
 - 4) (公社)大阪YWCA
 - 5) (公財)オイスカ関西支部
 - 6) (特活)地域環境デザイン研究所(エコトーン)
 - 7) (一社)大阪市男女共同参画のまち創生協会
 - 8) 大阪ユニセフ協会
 - 9) (特活)AMネット
 - 10) (社)大阪南太平洋協会
 - 11) (公財)大阪国際交流センター
 - 12) (特活)関西NGO協議会
 - 13) (公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

- 14) (特活)国際生涯学習文化センター
- 15) (特活)アクセス
- 16) (特活)関西国際交流団体協議会
- 17) (公社)青年海外協力協会近畿支部(JOCA 近畿)
- 18) アジアセンター21(アジア図書館)
- 19) I. S. A日本国際学生協会
- 20) (公社)アムネスティ・インターナショナル日本 関西連絡会
- 21) ピースおおさか
- 22) 国連環境計画・国際環境技術センター(UNEP IETC)
- 23) WHO神戸センター
- 24) (特活)大阪トルコ日本協会
- 25) 箕面メキシコ友の会
- 26) NICE日本国際ワークキャンプセンター
- 27) カルナーの会
- 28) コペルニクス
- 29) (公社)CISV日本協会 関西支部
- 30) NGOザンジバル柔道基金
- 31) 認定NPO法人大阪NPOセンター

(2) 参 加 者 <ブース個別相談対応>8月25日(日) 合計16名
 [ピースフェスティバル2013全体]
 来場者総数:365名
 ブース来場者数:53名

(3) 相 談 内 容 ①NGO・NPOの活動内容について…3件
 ②インターン・就職相談…3件
 ③ワン・ワールド・フェスティバル出展参加について…3件
 ④イベント協力について…2件
 ⑤MDG's(Stand Up 開催)について…2件
 ⑥グローバルフェスタの開催について…1件
 ⑦経営組織・マネジメント(広報)…1件
 ⑧国内ボランティア活動参加について…1件

(4) 相 談 者 区 分 [学生]6名 [社会人]3名 [NGO・NPO関係者]6名 [公館]1名

7. 全体的な感想

「Peace Festival 2013(大阪青年会議所主催)」は、世界中から集まった学生により、世界平和に向けたアクションプランを報告するカンファレンスであり、基調講演では駐日ベナン共和国特命全権大使のゾマホン・ルフィン氏を招いて、「日本人の心が世界を変える」と題して他国から見た日本の素晴らしさについて語られ、日本人の精神が世界を変えていく可能性を秘めていることを切実に述べられた。講演会には約300名近い聴講者が参加し、現在のグローバル社会の中で日本の若者がもっと将来について考察し、多くの国際的リーダーを育成する必要があることについて明言された。

同イベント参加に於いて、世界平和実現に向けて活動する諸団体としてブースを設けて来場者(一般・学生)に対して活動内容の提示、協力を求めるための告知活動を実施した。前回に比べ参加団体

31団体と多くの団体が参加していた。報告を実施する学生たちの学校数も24大学+専門学校1校と増え、海外からの学生は17ヵ国とこちらも増加していた。来場者数の半数以上が学生であり、将来の若者の国際協力を推進する基点となる事業であった。

〔参加学校〕

関西圏：大阪府立大学大学院、和歌山大学、和歌山県立医科大学、関西学院大学、同志社大学、同志社女子大学、立命館大学、近畿大学、畿央大学、関西外国語大学、大阪経済法科大学、武庫川女子大学

関東圏：東京大学、東京理科大学、慶応大学、津田塾大学、明治大学、立教大学、日本大学、首都大学東京

九州圏：九州大学、大分大学、立命館アジア太平洋大学

中部圏：名古屋大学

東北圏：福島工業高等専門学校

〔参加者国籍〕

日本・韓国・中国・ベトナム・タイ・カンボジア・インドネシア・オーストラリア・タジキスタン・アルバニア・トルコ・ロシア・ポーランド・ボツワナ・エジプト・フランス・カナダ・メキシコ

当協議会はNGO相談員の情報&相談コーナーを設け、国際協力やNGO・NPOの活動、社会貢献事業に関心はあってもなかなか相談をする機会がない学生及び相談や情報を求めて訪れる一般来場者に対して各種情報提供と実施すると共に外務省「NGO相談員制度」告知を実施し、来場者に向けて、NGOに関する相談窓口として活用してもらう機会を与えることが出来た。また今回はMDG'sの活動として「Stand Up Take Action」の広報協力も実施した。

設置ブースへの来場者は全体で大学生(38%)、NGO・NPO関係者(38%)、社会人(19%)、公館(5%)であった。相談内容は学生の場合、将来の仕事としてNGO・NPOの活動についての様々な内容を知りたいと言うことと在学中に国際協力事業でインターン・ボランティアとしてたずさわりたいと言う相談が大半であった。また、社会人ではMDG'sの活動について、そしてワン・ワールド・フェスティバル、グローバルフェスタの運営・実施についての相談があり、活動参加方法を具体的に知りたいとのことで各事業のウェブサイトを紹介し、コンタクトを取るよう勧めた。

同イベントに参加し、これからの若者の関心度が今後ますます膨らんで行くであろうと言う印象を強く受け、彼らの望む世界平和に向けた国際協力活動を支援するためには、適切に相談対応に応じて、グローバルな若者の育成に大きな責任が求められることになり、その必要性を強く感じた。

8. イベント開催時の風景



相談対応ブース (1)



相談対応ブース (2)



来場者 (1)



来場者 (2)



セミナー風景 (1)



セミナー風景 (2)



会場式典 (1)



会場式典 (2)

平成 25 年 9 月 9 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
山上 正道

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として出張サービスを実施したので、内容をご報告いたします。

記

1. 企画名: 島根から世界へ! ~市民参加の国際協力を知ろう~
2. 形態: 講演・相談対応サービス
3. 出張者氏名: 山上 正道
4. 依頼元/主催団体名等: 共催 公益財団法人しまね国際センター
後援 公益財団法人ふるさと島根定住財団
5. 実施日時: 平成 25 年 8 月 31 日(土)14 時 -16 時
6. 実施場所: 松江市市民活動センター(住所: 松江市白潟本町43番地 STIC ビル)
7. 実施の内容:
島根県松江市にて、国際交流・協力に関心のある一般市民および NGO・NPO 関係者に、NGO が行う多種多様な国際協力活動や、NGO が実施する ODA 事業など、市民が参加する国際協力についての講演会を開催。
また、国際協力への参加(ボランティア、インターン、就職など)や、NGO の立ち上げ、国際理解教育など、国際協力、NGO 活動等に関する相談に応じる相談会も開催。
上記講演と相談会を通じて、来場者や参加団体に、国際協力や NGO 活動に関する必要な情報を提供する。
8. 所感・効果:
講演・相談会を通じて、国際協力についての活動について知ってもらうことができた。
参加者は、ボランティアの参加希望者や、島根県を拠点に国際協力活動を展開している方、NPO スタッフ、海外プロジェクトに見学に行かれた方、学生など、多様な方々が参加された。台風の影響で天候が悪かったが、19 名の参加者があり、13 件の相談を受けた。実務面など NGO の活動内容から、事例に基づいた具体的な情報を提供できたのではないかと考える。

講演会の様子



講演会後の個別相談対応

